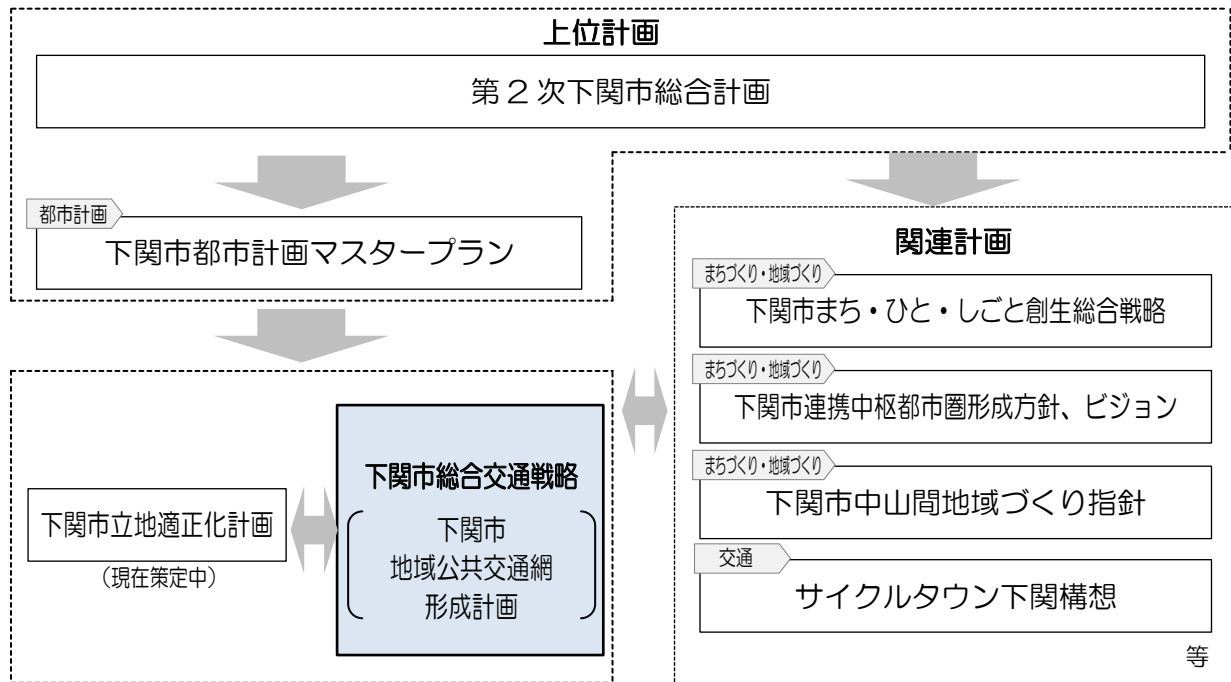


第2章 下関市のまちづくりの方針

(1) 下関市総合交通戦略の位置づけ

本市の行政施策の指針である『第2次下関市総合計画』、『下関市都市計画マスタープラン』をはじめ、まちづくり・地域づくりや交通等の分野に関する、各種関連計画があります。本交通戦略は、これらの上位・関連計画との連携を図り策定します。



(2) まちづくりの方向性

本市のまちづくりの総合的な方向性を示す『第2次下関市総合計画』では、「まちの誇りと自然の恵みを未来へつなぐ輝き海峡都市・しものせき」を基本理念に、地域特性や課題を踏まえ、都市拠点ゾーン、環境共生ゾーン、交流促進ゾーンを形成し、これら各ゾーンにおける取り組みや地域間交流など様々な活動を支える地域連携軸として位置付け、まちづくりの方向を示しています。

基本理念：まちの誇りと自然の恵みを未来へつなぐ輝き海峡都市・しものせき

将来像：1. 魅力あふれる人・文化を育み、いきいきと交流するまち

2. 多彩な人が輝き、活力ある産業が振興するまち

3. みんながともに学び、ともに楽しむ、人を育てるまち

4. 美しく潤いのある自然やまちなみと人が共生するまち

5. 効率的で活動しやすい都市機能を備えるまち

6. 誰もが安全で安心して暮らせるまち

7. 人と人が支え合う誰もが健やかで笑顔があふれるまち

8. 人のつながりを大切にし、地域の力が活きるまち

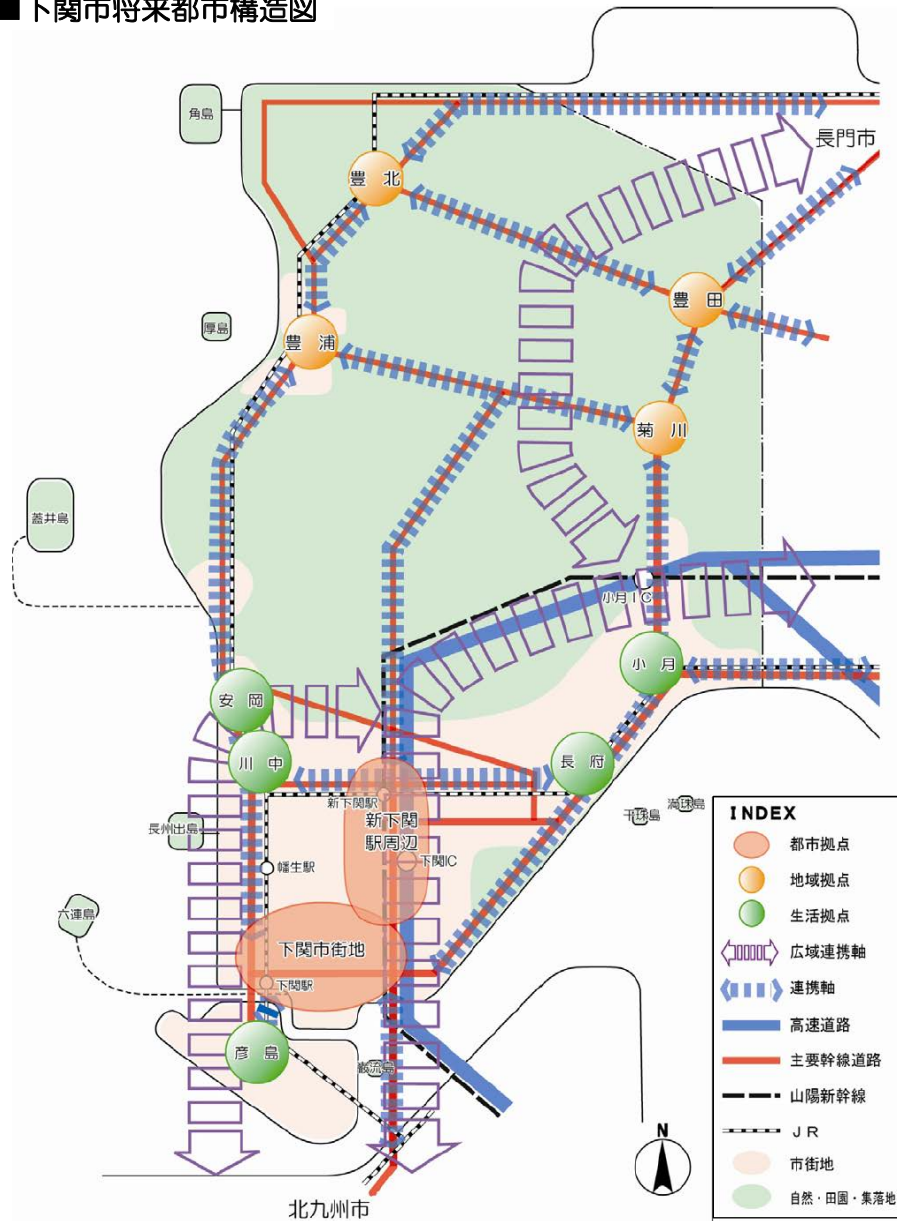
【まちづくりの方向】



(3) 目指す将来都市構造

都市計画マスタープランでは、総合計画におけるまちづくりの方向を踏まえ、具体的な将来像である都市構造を以下のように示しています。

■下関市将来都市構造図



- 都市拠点：市の中心的役割を担う拠点
- 地域拠点：一定の都市機能を担う地域の核となる拠点
- 生活拠点：固有の拠点機能を有する拠点
- ⇄ 広域連携軸：山陰・山陽・九州方面とのアクセス性を重視した広域的なトリップを担う軸
- ⇄ 連携軸：周辺都市及び都市拠点と地域拠点等を結び広域交通の円滑な処理を担う軸

コンパクト+ネットワークの考えに基づいたまちづくり
 今後の少子高齢化・人口減少を見据え、医療・福祉等の生活に必要な各種サービスを維持し、効率的に提供していくために、各種機能を一定のエリアに集約化（コンパクト化）していくことが求められます。集約化にあたっては、各地域を公共交通でネットワーク化することで各種都市機能に応じた圏域人口を確保する地域構造となる「コンパクト+ネットワーク」を形成していくことが重要です。
 国のまちづくりの動向として推進されており、本市においてもこの考えに基づき、まちづくりを進めていきます。

(4) 関門連携について

関門海峡という共通の財産を持つ下関市と北九州市は古くから密接な関係をもちながら一体的な都市圏・経済圏を形成しており、平成19年には関門連携共同宣言（関門の5連携）が締結されました。近年では、関門“ノスタルジック”海峡の日本遺産の認定や両市共同イベントの開催等、連携・交流活動が活発に行われています。

また、通勤・通学においても下関市と北九州市の流動人口は多く、下関市のまちづくりを検討する上で、北九州市との連携は必要不可欠であるといえます。

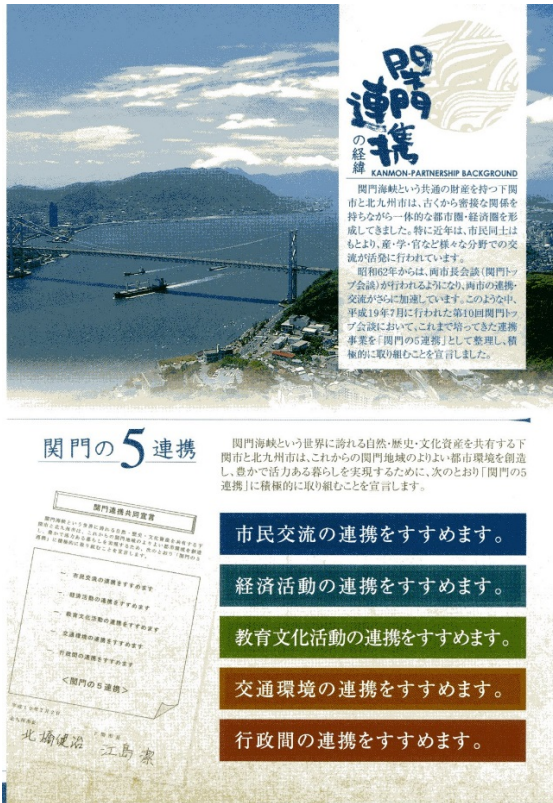
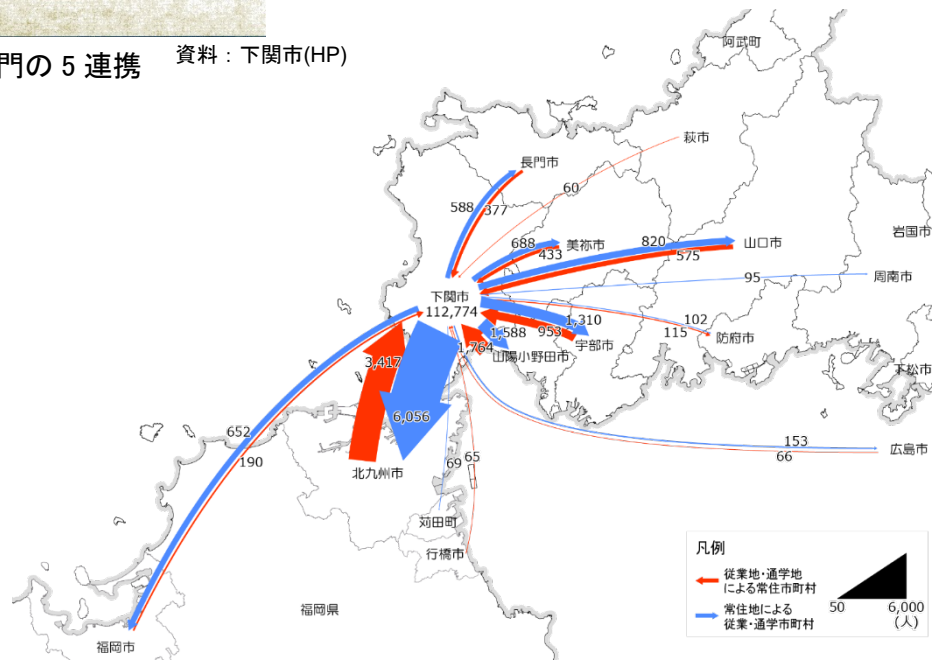


図 2.1 関門の5連携 資料：下関市(HP)



資料：H27 国勢調査
図 2.2 都市圏内外の流動(通勤・通学流動)